

## 生駒市小中一貫教育懇話会のまとめ（案）

これまでの経過を整理すると、懇話会での意見は以下のような流れを経てきた。

第1回から第3回目では、大きく3つの意見があった。1つめは、小中一貫教育に関する情報不足で、不安である。講演会・説明会をもっとして欲しい。2つめは、この度の小中一貫教育についての提案は、手続き的に問題があり、撤回の上、あらためて北中学校区の教育を考えていく取組をして欲しい。3つ目は、学校と地域で北中学校区の教育を考えていきたい。小中一貫教育はそれを開いていく可能性を持つので積極的に考えていきたい、とするものであった。

その後、この懇話会の1つめの意見にまず沿って、話し合うにしても情報不足では問題があるということで、講演会、説明会、似た規模・立地などをもつ小中一貫校の視察に出かけるということが決定され、小中一貫教育の理解、生駒市の方針についての理解などの時間が取られた。

続いて、懇話会の第4回から第6回では、小中一貫教育についての理解が広がりを持ち、また、生駒市の方針についても確認がなされ、より前向きに小中一貫教育を考えようとする話し合いが持たれた。

そして保護者、地域の声を拾う活動として、アンケートや対面による話し合いの時間、先進的な取組をしている地域の声を聞きに出かけるなどの情報収集がなされ、その結果についても懇話会で話された。

さらに、生駒北中学校区で小中一貫教育を行うとしたら、何を指すのかについても懇話会内で明確にする話し合いも持たれ、そのイメージも作成されていくに至った。

8回の話し合いを通して、概ね次のような意見が出された。北小、北中に望むことは、学力向上、教員の指導力の向上、部活動の充実等の課題改善であり、小中一貫校のメリットを生かして魅力ある学校づくりに取り組み、周辺の地域から児童生徒が転入してくるようにしてほしい。また、小中一貫教育で、充実した設備、特色ある教育課程を備えた魅力ある学校をつくり、地域や保護者、学校が一体となって地域の活性化を図りたい。さらに、1学年1学級の状況の中、小中一貫教育を取り入れ小中教員の協働による学習指導や生徒指導等を生かし学校の教育力の維持向上を図りたいとした上で、実施については教員の不安や負担を考慮してほしいという意見や中学校から入ってくる生徒の不利にならないよう十分配慮すべきという意見もあった。小中一貫教育をしなくても、これまでの取組で十分可能であり、むしろ教員の人数を増やすべきという意見も引き続きあったが、最終的に大きな意見の流れとしては、小中一貫教育を進めることで、生駒北小学校、北中学校の教育をみんなで考えていこうとする方向性が意見の大半を占め、むしろ、より具体的にどのように進めていくかに時間をかけたいという意見が多く出されるに至った。

上記話し合いで出された意見が小中一貫校設置に向けて生かされることを望むものである。

平成25年10月16日

座長 小柳和喜雄